

君津駅周辺まちづくりワークショップ まとめ資料

ワークショップの流れ

2025年度からスタートするまちづくりワークショップのキックオフ。

ポイント

- ✓ まちづくりワークショップにどんな人が集まっているのか？
- ✓ 今後、まちづくりワークショップでどんなテーマを話したいか？

記入

ワークショップの下準備

- ✓ 本日は初めて顔を合わせです。自分が君津に対してどんな想いを持っているのか、他人に伝えることを目的にワークシートに記入します。

10分
ワークショップ準備
(ワーク A・B)

ディスカッション

ラウンド (その1)

- ✓ ひとこと自己紹介 (1人1分) ※5分
- ✓ お題: ①のテーマでディスカッション ※25分

30分
ラウンド (その1)

席替え

ラウンド (その2)

- ✓ ひとこと自己紹介 (1人1分) ※5分
- ✓ お題: テーブルごとにお題を設定 ※25分

30分
ラウンド (その2)

発表

全体共有、次回に向けて。

- ✓ グループディスカッションの内容を、グループごとに簡単に発表します。(3分程度)

15分
本日の感想

ディスカッションテーマ

〔お題①〕

自己紹介ワークBで作成した「THINK KIMITSU!」を題材に、これからの君津を実現するために「↓（矢印）」でどんな方法を取ればよいと思いますか？

〔お題②〕

君津のまちを良くするために、みなさんが前向きに話し合えるお題（オープンクエスチョン）は何がありますか？

〔お題③〕

ワークショップの参加者が協力することで、君津のまちに対して、どんなインパクトやアクションを与えることができますか？

まちづくりに対して、自分ごと化し、自分の関心に寄せ、深い目的感を持てるために、まちづくりワークショップの参加者はどんな組織を目指す必要がありますか？

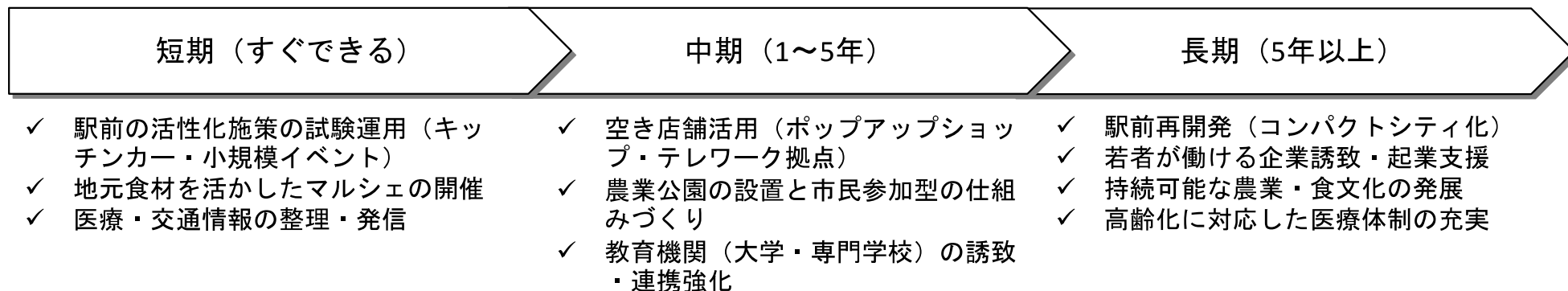
〔お題④〕

どんなまちの将来像を描き、具体化していくのかを考えるのがまちづくりワークショップのミッションです。これからの活動で参加者とともに、話してみたい「テーマ、視点、まちの姿」は何が考えられますか？

ラウンド1- 音声記録まとめ（お題①）

共通の課題認識	✓ 駅前の活性化が必要（空き店舗が多く、にぎわいが無い） ✓ 若者の流出・定住促進が課題（雇用・教育機関が少ない） ✓ 高齢化と医療の充実が必要（医療機関の不足・アクセスの悪さ） ✓ 地域の魅力が活かされていない（農業・食・文化の発信不足）
---------	---

	1班	2班	3班	4班
主な課題意識	若者の流出・雇用不足	駅前の寂しさ・商業の低迷	地域の魅力が活かされていない	高齢化・医療・交通・農業の活用
ターゲット	地元の人・定住者	来訪者・観光客も視野に	住民自身に気づきを与え、楽しめる街	若者・高齢者・移住希望者
方向性	若者向けの店・仕事を増やす	小規模な取り組みからスタート	駅前に「横丁」的なエリアを作る	コンパクトシティ化で人を集める
アイデア	大学誘致・リモートワーク環境整備	キッチンカー・イベントでにぎわい創出	体験型観光・地元文化を活かす仕組み	医療・交通・農業を整備し、住みやすい街へ



ラウンド2 - 音声記録まとめ（お題①）

駅周辺の高齢化と投資回収の難しさ	✓ 高齢者が多く、若者の人口が減少しているため、投資回収が難しい ✓ 事業を始めても5年後・10年後に顧客がいるのか不透明	若者が集まる仕組みづくり	✓ イベント・施設の充実、家賃補助・初期投資支 ✓ 空き地の短期貸し出し、キッチンカー・ポップアップショップ活用
農業の可能性が活かされていない	✓ 君津の気候や土壌は農業に適しているが、市民に十分活用されていない ✓ 農業を観光・体験型事業として活かす仕組みが必要	農業の活用と観光促進	✓ 体験型農業公園の整備、直売所・イベントの開催 ✓ 地元特産品の販売強化、農業×観光プロジェクト推進
駅周辺の家賃の高さと空き店舗の増加	✓ 駅前の家賃が高く、新規出店が困難 ✓ その一方で、空き店舗や未活用の土地が多い	空きスペースの有効活用	✓ 市有地の活用情報公開、マルシェ・イベントの定期開催 ✓ 事業者と連携し遊休地を活用、駅前の短期出店を支援
公共スペースの有効活用が進んでいない	✓ 市が所有する空き地や施設の活用が不十分 ✓ 市民や事業者が自由に使えるような仕組みが必要	起業・副業支援	✓ 起業支援拠点の設置、起業講座・副業相談会の開催 ✓ コワーキングスペースの拡充、駅前にワーク＆カフェを設置
若者の働き場・副業支援の不足	✓ 副業や起業に興味を持つ人は多いが、支援が不足 ✓ 「ラズビズ（起業支援拠点）」のような施設があれば挑戦しやすい	子ども・若者の居場所づくり	✓ 空き家活用の遊び場整備、eスポーツ・カードゲームスペースの活用 ✓ フリースペースの設置、NPO・民間と連携し支援体制を強化
子どもが遊べる・学べる場所が少ない	✓ 祝日に遊べる施設がほとんどなく、イオンなどに行くしかない ✓ 不登校の子どもたちが安心して過ごせる居場所も必要		

ラウンド2 - 音声記録まとめ（お題②）

駅前が寂しく、にぎわいが不足している	✓ 駅周辺にお店が少なく、人が集まりにくい ✓ 空き地や駐車場が多いが、活用されていない	駅前・空き地の活用 ✓ フリーマーケットや農産物販売イベントの開催 ✓ 駅構内・歩道での軽飲食・特産品販売スペースの設置 ✓ 仮設店舗を導入し、事業者が気軽にテスト運用できる環境を整備
空き地・公共スペースの情報が不足している	✓ 「どの場所が利用可能なのか」が分からず、活用が進まない ✓ 一時的な活用（仮設店舗やキッチンカーなど）の仕組みが必要	公共スペースの利活用促進 ✓ 利用可能な土地・スペースの情報公開 ✓ 簡単な申請で利用できる制度を整備 ✓ 小規模イベントから始め、常設店舗の誘致へ発展
地域の魅力発信が不足している	✓ 君津には特産品や文化資源があるが、住民や来訪者に知られていない ✓ 農産物や地酒などを駅前で気軽に購入できる場がない	地域の魅力発信とにぎわい創出 ✓ 駅前での特産品販売（地酒・味噌・農産物） ✓ SNSやイベントでの積極的な情報発信 ✓ 音楽ライブやパフォーマンスイベントの定期開催
事業を始めるハードルが高い	✓ 店舗を構えるには家賃が高く、初期投資の負担が大きい ✓ 小規模に始められる仕組み（マルシェ・短期貸出スペース）が必要	事業支援と起業促進 ✓ 低コストで始められる仕組みの整備 ✓ 家賃の安いエリアで小規模店舗を運営できる制度の導入 ✓ 副業・スモールビジネス向けのテストマーケティング支援

ラウンド2 - 音声記録まとめ（お題③）

駅前が活用されていない	✓ 駅周辺に飲食店が少なく、特に昼間に利用できる店がほとんどない ✓ 立ち寄りたくなる場所がなく、人が滞留しない	駅前の活性化 ✓ マルシェやイベントを定期開催し、特産品・農産物をPR ✓ 駅前の歩道・広場にキッチンカーや仮設店舗を設置 ✓ 音楽ライブやパフォーマンスでにぎわいを創出
空き地や公共スペースの活用が進んでいない	✓ どの土地が使えるのか分からず、事業者が活用しづらい ✓ 利用しやすいルールや仕組みが整備されていない	空き地・公共スペースの活用 ✓ 市所有の空き地・歩道の活用情報を公開 ✓ 簡単な申請で小規模事業者が活用できる制度を整備 ✓ ポップアップショップやキッチンカーを試験導入し、常設化を目指す
地域資源（農産物・地酒・文化）の活用不足	✓ 君津の特産品や文化的な資源を活かしきれていない ✓ 住民自身が地域の魅力を十分に認識できていない	地域資源を活かした事業展開 ✓ 「モロキューセット」など地元特産品の販売促進 ✓ 駅前での農産物・地酒販売と体験イベントの実施 ✓ SNSや観光サイトで情報発信し、認知度を向上
新たな事業を始めるハードルが高い	✓ 店舗を構えるには家賃が高く、初期投資の負担が大きい ✓ 短期間で試せる仕組みがなく、事業者の参入が難しい	事業参入のハードルを下げる ✓ 仮設店舗・シェア型スペースを導入し、小規模ビジネスを支援 ✓ 低家賃で若者向け出店機会を創出（柏市の事例を参考） ✓ 起業支援制度を整備し、副業・スモールビジネスを促進

ラウンド2 - 音声記録まとめ（お題④）

都市計画の方向性が明確でない	✓ 人口減少が進む中で、コンパクトシティ化を進めるべきか、広域での活性化を目指すべきかが不透明 ✓ 過去の都市計画が活かされておらず、新日鉄の経済圏に依存したまま推移	まちの将来像と都市計画 ✓ コンパクトシティ化を推進し、商業・生活施設を集約 ✓ バス路線整備・駐車場確保で移動しやすい環境を整備 ✓ 商業・文化・観光拠点を各エリアに分散し、地域全体の活性化を図る
公共インフラ・サービスの充実が必要	✓ 医療機関が不足し、特に高齢者向けの医療体制が脆弱 ✓ 駅周辺に人が集まらず、歩行者が滞留する空間が少ない	医療・教育・雇用の充実 ✓ 体験型農業公園の整備、直売所・イベントの開催 ✓ 地元特産品の販売強化、農業×観光プロジェクト推進
教育・雇用環境の課題	✓ 学校の統廃合が進み、若年層の流出が加速 ✓ 産業が限られ、東京へ通勤・移住する人が多い	地域資源の活用と観光促進 ✓ 市有地の活用情報公開、マルシェ・イベントの定期開催 ✓ 事業者と連携し遊休地を活用、駅前の短期出店を支援
地域資源の活用が不十分	✓ 君津の歴史・文化・特産品を活かしたまちづくりが進んでいない ✓ 地域イベントや観光資源の情報発信が弱い	

今後に向けて（キーワードの方向性）

駅前活性化



駅前を多機能型の交流拠点とし、マルシェ、ポップアップショップ等が開催できる環境を整える

公共空間



駅前市有地、こ線人道橋、駅前広場など、ポテンシャルの高い公共空間を有効活用する

地域資源



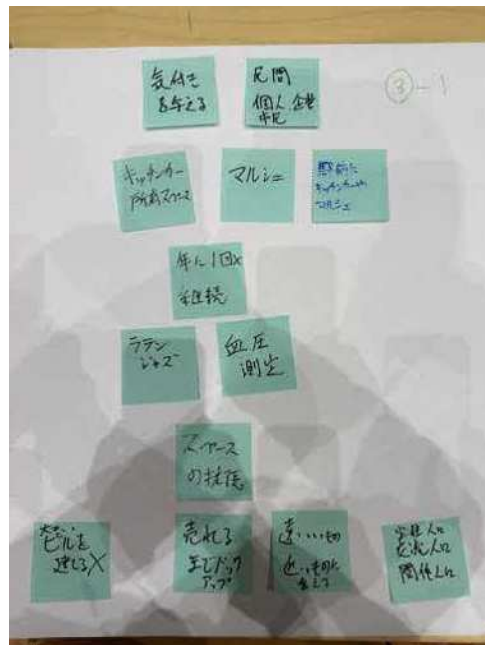
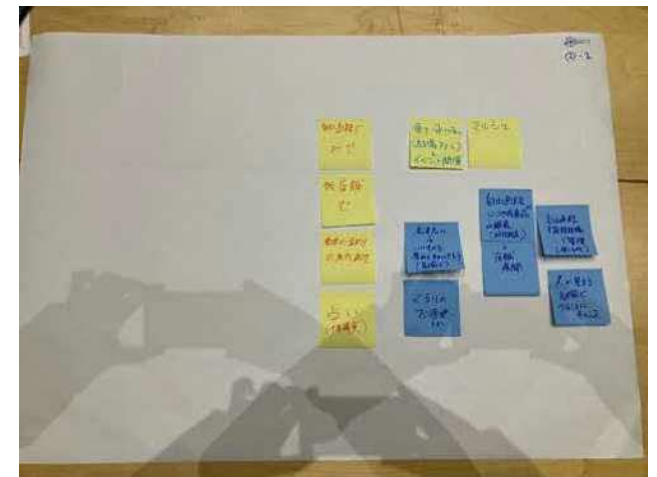
地域資源（農業・酒造・文化など）を活用し、駅周辺と郊外部・山間部の接点を生むビジネスモデルを生み出す

コミュニティ



行政・市民・企業が連携する「まちづくりプラットフォーム」を設立し、継続的な実験と改善を実施

模造紙（記録）



実施写真

